

# 令和7年度 自己評価報告書

(専門学校等評価基準 Ver.4.0 準拠版)

令和8年3月31日

学校法人福岡医療学院

福岡医療専門学校

# 目 次

教育目標と本年度の重点目標の評価	1	基準5 学生支援	22
の評価	1	5-16 就職等進路	23
基準1 教育理念・目的・育成人材像	2	5-17 中途退学への対応	24
1-1 理念・目的・育成人材像	3	5-18 学生相談	26
基準2 学校運営	5	5-19 学生生活	28
2-2 運営方針	6	5-20 保護者との連携	31
2-3 事業計画	7	5-21 卒業生・社会人	33
2-4 運営組織	8	基準6 教育環境	35
2-5 人事・給与制度	9	6-22 施設・設備等	36
2-6 意思決定システム	10	6-23 学外実習、インターンシップ等	37
2-7 情報システム	11	6-24 防災・安全管理	38
基準3 教育活動	12	基準7 学生の募集と受入れ	39
3-8 目標の設定	13	7-25 学生募集活動は、適正に行われているか	40
3-9 教育方法・評価等	14	7-26 入学選考	42
3-10 成績評価・単位認定等	15	7-27 学納金	44
3-11 資格・免許の取得の指導体制	16	基準8 財務	46
3-12 教員・教員組織	17	8-28 財務基盤	47
基準4 学修成果	18	8-29 予算・収支計画	48
4-13 就職率	19	8-30 監査	49
4-14 資格・免許の取得率	20	8-31 財務情報の公開	50
4-15 卒業生の社会的評価	21	基準9 法令等の遵守	51
		9-32 関係法令、設置基準等の遵守	52

9-33	個人情報保護 .....	53
9-34	学校評価 .....	54
9-35	教育情報の公開.....	55
<b>基準 10</b>	<b>社会貢献・地域貢献.....</b>	<b>56</b>
10-36	社会貢献・地域貢献.....	57
10-37	ボランティア活動.....	58

# 教育目標と本年度の重点目標の評価 教育目標と本年度の重点目標の評価

学校の教育理念・目標	令和7年度重点目標	重点目標・計画の達成状況	課題と解決策																												
<p>○ 教育理念 親が子に残せる唯一の財産は教育である。</p> <p>○ 目標 教育基本法及び学校教育法に従い、学校教育を行い、知識・技術・人間性を兼ね備えた人材を育成することを目標とする。</p>	<p>○ 「退学者0(ゼロ)」 「退学者0(ゼロ)」に向けた取り組みを継続する。特に1年生の中途退学者がないように、学習や生活に対する支援を強化する。</p> <p>○ 国家試験合格100% 専門職となるのに必要な知識と技能を修得し、他者と良好な関係を築きながら、その能力を生涯にわたり研さんし続けることができる医療人を養成する。</p> <p>○ 入学定員の充足 美容を学ぶコースを設置する等の新たなチャレンジを行いながら、唯一無二の専門学校をつくりを行い、入学定員の充足を図る。</p>	<p>○ 「退学者0(ゼロ)」 入学前の学習サポートや入学後の演習補習による基礎学習の定着を図り、学力不振を理由とした退学者を減らすことにつながった。</p> <p>○ 教育活動・学修成果</p> <table border="0"> <tr> <td>柔道整復師</td> <td>97.1%</td> </tr> <tr> <td>(35名受験、34名合格)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>はり師</td> <td>97.1%</td> </tr> <tr> <td>(34名受験、33名合格)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>きゅう師</td> <td>97.1%</td> </tr> <tr> <td>(34名受験、33名合格)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>理学療法士</td> <td>97.8%</td> </tr> <tr> <td>(46名受験、45名合格)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>96.4%</td> </tr> <tr> <td>(55名受験、53名合格)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>診療放射線技師</td> <td>91.2%</td> </tr> <tr> <td>(34名受験、31名合格)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>歯科衛生士</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>(18名受験、18名合格)</td> <td></td> </tr> </table> <p>○ 実践的な職業教育 定員充足に向け、専門家の知見を活かした教育課程の改善や美容コースの新設を実施。多職種連携を軸とした学科横断的な交流や海外研修など、魅力ある学習環境を整えた。</p>	柔道整復師	97.1%	(35名受験、34名合格)		はり師	97.1%	(34名受験、33名合格)		きゅう師	97.1%	(34名受験、33名合格)		理学療法士	97.8%	(46名受験、45名合格)		看護師	96.4%	(55名受験、53名合格)		診療放射線技師	91.2%	(34名受験、31名合格)		歯科衛生士	100%	(18名受験、18名合格)		<p>○ 「退学者0(ゼロ)」 FD・SD研修により指導力向上を図る一方、さらなる改善も急務である。退学理由の多様化を受け、特にメンタルケアを中心としたサポート体制の構築を推進する。</p> <p>○ 教育活動・学修成果 令和7年度より柔道整復科Ⅱ部(午後)を新設し、複数の学科を並行して学べる「同時受講体制」を整備している。今後は、多角的なスキルを備えた質の高い医療従事者を育成するため、教員の積極的な研修参加を通じてさらなる指導力の向上を図らなければならない。さらに令和9年度には鍼灸科Ⅱ部の設置も計画しており、学びの選択肢を広げることで、時代に求められるハイブリッドな医療人の輩出を目指していく。</p> <p>○ 魅力ある学校教育課程 6学科を擁する総合校としての強みを活かすため、学科間の縦割り教育に留まっている現状を打破しなければならない。美容鍼灸やスポーツ医学、予防医療といった業界トレンドへの対応も急務である。</p>
柔道整復師	97.1%																														
(35名受験、34名合格)																															
はり師	97.1%																														
(34名受験、33名合格)																															
きゅう師	97.1%																														
(34名受験、33名合格)																															
理学療法士	97.8%																														
(46名受験、45名合格)																															
看護師	96.4%																														
(55名受験、53名合格)																															
診療放射線技師	91.2%																														
(34名受験、31名合格)																															
歯科衛生士	100%																														
(18名受験、18名合格)																															

最終更新日付	令和8年3月31日	記載責任者	小磯 嘉貴
--------	-----------	-------	-------

## 基準 1 教育理念・目的・育成人材像

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本校では教育理念、目的、および目指すべき人材像を明確に定め、その浸透に注力している。関係機関との連携を通じて業界ニーズを的確に反映した人材像を策定し、教職員が一丸となってその育成を推進している。また、今年度の重点目標である「退学者 0（ゼロ）」の実現に向け、FD・SD 研修会を通じて教員の意識変革と情報の共有を図り、組織的な支援体制の強化に努めている。</p>	<p>令和 7 年 4 月 1 日付で「柔道整復科Ⅱ部（午後）」の設置が認可され、I 部との同時受講を可能とする柔軟な修学体制を整備した。</p> <p>教育課程においては、各業界のニーズを反映すべく「美容」領域の導入を検討している。その先駆的なモデルケースとして、令和 7 年 1 月 5 日に「NISHIJIN CURE Labo マッサージ&amp;鍼灸院・整骨院」を開設した。また、令和 8 年 4 月施行の改正学校教育法に準拠し、多職種連携を包含した新教育課程への改定を進めている。</p>

最終更新日付

令和 8 年 2 月 5 日

記載責任者

小磯 嘉貴

## 1-1 理念・目的・育成人材像

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
1-1-1 理念・目的・育成人材像は、定められているか	本校の教育理念・目的・育成人材像は教職員、学校関係者が共有すべき重要なものと考え、明確に定めている。	教育理念・目的・育成人材像は、学則、本校ホームページ及び学校案内パンフレット等に明確に公表している。	理念等は周知徹底されている。	学校案内パンフレット 学生募集要項 本校ホームページ 学則 シラバス 3つのポリシー
1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	教育課程編成委員会、次年度教育内容会議及び学校関係者評価委員会等を通じて得た業界等のニーズをカリキュラムの作成に反映させ、育成人材像を見直す。	各学科において教育課程編成委員会、次年度教育内容会議及び学校関係者評価委員会等と協議して作成したカリキュラムに基づき指導および教育活動を進めている。	就職支援室を中心として、関連業界から求められる育成人材に関する情報収集を更に進めていく。	教育課程編成委員会議事録 次年度教育内容会議議事録 学校関係者評価委員会議事録 シラバス 本校ホームページ 就職活動報告書
1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	福岡医療専門学校における3つのポリシー「DP」「CP」「AP」を学科ごとに定め、特色のある職業実践教育に取り組む。 一昨年から「退学者0(ゼロ)」を目標に追加し、今年は美容に関する講座を本格的に開始する予定。	3つのポリシーを踏まえた実践的な教育を実施するため、臨床経験豊富な教員を授業に配置している。 「退学者0(ゼロ)」に向けて1・2年生への対応を各学科で行っている。各業界のトレンド(美容等)や学校教育法の改正に伴い教育課程の改定を行った。	「DC」「CP」「AP」の目標に沿った指導教育が出来るように教職員の更なるスキルアップが求められる。 今までの学生指導および「退学者0(ゼロ)」の取り組みについて、教員の意識の転換が必要である。 美容に関する講座を本格的に開始するため、教員のスキルアップが課題である。	学校案内パンフレット 学生募集要項 本校ホームページ 学生要覧 3つのポリシー シラバス

<p>1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか</p>	<p>教育課程編成委員会、学校関係者評価委員会等より得た情報を常に把握し、時代に即した職業教育の充実向上に取り組む。</p> <p>入学者の意識の変遷により一昨年から「退学者0(ゼロ)」に向けた取り組みを行っている。また、今年は美容に関する講座を本格的に開始する予定。</p>	<p>将来構想を実現する人材を養成するため、学内FD・SD研修、外部研修会等を活用して、教職員の対応力及び資質向上に努めている。</p> <p>一昨年から導入している「退学者0(ゼロ)」の取り組みをFD・SD研修で各科の担当が発表し情報を共有している。</p> <p>今年は美容に関する講座を追加する為、臨床実習施設であったところに、美容鍼灸・マッサージ院として開業している。</p>	<p>教育課程編成委員会、学校関係者評価委員会及び就職先からのニーズや意見を聴取する機会の増加について検討していく。</p> <p>「退学者0(ゼロ)」の取り組みで、学生指導における教員間の認識、対応力が課題である。</p> <p>近年の美容のニーズに対応できる教員の対応力が課題である。</p>	<p>事業計画書 学校案内パンフレット 本校ホームページ 教育課程編成委員会議事録 研修会参加報告書 学内FD・SD研修会抄録</p>
--------------------------------------	--	--	--	---

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本校の教育理念、目的、育成人材像について明確に定めるとともに、その周知に努力している。関連機関等の協力のもとに業界のニーズに沿った対応に努め、育成すべき人材像を構想し、教職員一丸となってその育成に取り組んでいる。</p> <p>今年度の目標である「退学者0(ゼロ)」の取り組み、教員間の意識の転換を図るため、FD・SD研修会を通じ情報を共有している。</p> <p>美容に関する講座を追加する為、美容鍼灸・マッサージを行う「NISHIJIN CURE Labo マッサージ&amp;鍼灸院・整骨院」を開業した。</p>	<p>地域医療機関の要請を受け、令和5年度から歯科衛生科を設置し、初めての卒業生を輩出する。</p> <p>柔道整復師と鍼灸師の同時受講を可能にするため、令和6年11月に柔道整復科の午後コースの承認を受け、令和7年の入学生を受け入れている。</p> <p>併せて、令和9年4月に鍼灸科の午後コースの開講に向け承認申請の手続きを行っている。</p> <p>学生の変遷に対応するため、「退学者0(ゼロ)」の取り組みを行っている。</p> <p>近年の美容に関するニーズに対応するため、美容に講座を追加する。教員の技術を上げるため、美容鍼灸・マッサージを行う「NISHIJIN CURE Labo マッサージ&amp;鍼灸院・整骨院」を開業した。</p>

最終更新日付	令和8年1月15日	記載責任者	大神 啓裕
--------	-----------	-------	-------

## 基準 2 学校運営

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本校の運営方針は、評議員会の意見を踏まえて理事会で決定される。この方針に基づき、毎週開催される運営会議で進捗状況を確認するとともに、各学科・各分掌会議において具体的な実施策を検討・実行している。また、毎月開催される教職員会議には全教職員が出席し、理事長から運営方針が直接周知される体制を構築することで、組織全体でのベクトル合わせを徹底している。</p> <p>今年度も「退学者ゼロ」に向けた取り組みを全校体制で強化した。各学科・分掌での具体的な施策は、FD・SD 研修を通じて教職員全員で共有され、迅速な学生対応に繋げている。また、学生の自主性を尊重した「校則（細則）」の改定にも着手した。学生主体の環境づくりを推進した結果、一定の成果を収めることができた。</p> <p>業務効率化として、ネットワーク環境の最適化を図っている。情報資源をクラウドストレージへ移行し、ウイルス感染や災害に備えた強固なバックアップ体制を構築した。運用面においては、PC 使用規程の整備および情報資産へのアクセス権限を厳格に設定し、情報漏洩や不正アクセスを未然に防ぐセキュリティ対策を講じている。</p>	<p>令和 7 年 4 月 1 日より柔道整復科Ⅱ部を設置し、複数学科の同時受講を可能とする柔軟な教育体制を整備した。さらに、令和 9 年 4 月の設置を目指し、鍼灸科Ⅱ部の設置承認申請を現在進めている</p> <p>学習環境の向上と省エネルギー化を図るため、校内への LED 照明導入および 1 号館の空調設備改修を実施した。また、学校環境管理を徹底し、学生が学業に専念できる快適な空間を維持している。</p> <p>サイボウズ、Slack、Google ツール等のクラウドサービスを積極的に活用し、議事録や決定事項を迅速に共有する体制を構築した。他学科の議事録も閲覧可能とすることで、学科間の連携を促進し、組織全体の業務効率化を実現している。</p> <p>サポート期限を控えた Windows および Microsoft Office のアップグレードを完遂し、安全な運用基盤を確保した。校内ネットワークのクラウド化とバックアップ体制の構築により、ウイルス感染や自然災害時における情報資産の保全と早期復旧を保障している。</p> <p>パソコン等の使用規程を整備し、情報資産へのアクセス権限を明確化。厳格なセキュリティ対策を講じることで、情報資産の安全な利用を担保している。</p>

最終更新日付	令和 8 年 2 月 5 日	記載責任者	小磯 嘉貴
--------	----------------	-------	-------

## 2-2 運営方針

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-2-1 理念に沿った運営方針を定めているか	運営方針は評議員会の意見を踏まえて理事会で決定する。教職員会議、学科会議において教職員等に周知徹底する。	少子高齢化を背景とした社会環境において、学生募集活動の取組強化を行っている。また、「退学者0(ゼロ)」に向け学生支援に注力し、学生満足度の底上げを図る 具体的には学生とのコミュニケーションを強化し、補習などの学習指導、学科間交流による学生の連帯意識の醸成を行った。	引き続き少子化を背景とした社会環境において、学生募集活動の取組強化が課題である。特に卒業生や就職・実習先等との情報交換を強化し、学生募集に繋がるように努める。	理事会議事録 評議員会議事録 学校会議規程 運営会議議事録 教職員会議議事録 事業計画書 学科会議議事録 学生募集要項

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
運営方針は評議員会の意見を踏まえて、理事会で決定している。	「退学者0(ゼロ)」に向け学生支援に注力し、学生満足度の底上げを図るため、学生の自主性を優先とした学校ルール(細則)の改訂、LED照明の導入を行い学習環境の整備を計った。

最終更新日付

令和8年1月15日

記載責任者

中村 秀樹

## 2-3 事業計画

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか	本校では、適切な学校運営を推進するため、明確な事業計画を策定・遂行する方針を堅持している。具体的には、各学科および校務分掌が年間計画を立案し、その計画に基づき着実な業務遂行を図っている。	毎年度、ボトムアップ形式で各学科・分掌が計画案を策定し、運営会議、理事会、評議員会という適正な審議プロセスを経て予算を確定させている。この事業計画書を学校運営の基盤に据え、計画的な教育活動を展開している。	事業計画に基づき募集活動を展開しているが、入学者数の確保は依然として厳しい状況にある。今後は進路ガイダンス等を通じて志願者との接触機会を積極的に創出し、本校の特色をより深く理解していただくための取り組みが必要となる。次年度に向け、オープンキャンパス、進路ガイダンスへの広報活動に注力していく。	事業計画書 理事会議事録 評議員会議事録 運営委員会議事録 学科会議議事録 課内会議議事録 教職員会議議事録 専門実践職業教育訓練申請書 柔道整復科養成所定員変更承認申請書 はり師きゅう師定員変更承認申請書

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
事業計画は理事会および評議員会の承認を経て遂行され、その執行状況については運営会議や教職員会議において多角的に検証する体制を構築している。抽出された課題や成果は次年度の計画に確実にフィードバックし、組織全体で実効性の高い学校運営を推進している。	令和7年4月の柔道整復科Ⅱ部設置に続き、鍼灸科の定員変更承認申請を行った。これら一連の拡充により、複数学科を同時受講できる体制が一段と強化され、学生の多様な学びのニーズに応える教育環境を整備していく。

最終更新日付

令和8年1月15日

記載責任者

小磯 嘉貴

## 2-4 運営組織

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか	寄附行為の規程に基づき、理事会と評議員会を開催して適切な運営を行う。	寄附行為の規定に基づき、理事会と評議員会を定期的に開催し、組織的運営の方向性の確認とともに、透明性の確保に努めている。重点目標であった「退学者ゼロ」の取り組みについて、理事会と評議員会の助言等も踏まえ進められた。	コロナ禍終息後、本校を取り巻く教育環境や社会環境などは大きく変化してきている。このような中、理事及び評議員から俯瞰的な見地での提言や助言を取り入れ、教育内容を充実させる必要がある。	法人寄附行為 理事・監事・評議員名簿 理事会議事録 評議員会議事録 組織図 学内諸規程 教職員会議議事録
2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか	適切な学校運営に取り組むため、組織及び規程を整備する。	学校運営において教職員の業務能力の向上のため、学内FD・SD及び外部研修を行った。学校運営にあたっては、今年度学校としての重点目標である「退学者ゼロ」の取り組みについてこれらの研修を活用し、各学科が情報を共有することで様々な取り組みがなされた。	学内FD・SD及び外部研修については今後も継続し、教職員が研鑽できる環境づくりをしていく必要がある。「退学者ゼロ」の取り組みについても今年度の実績を踏まえ分析を行い、引き続き検討、取り組みをしていく必要がある。	学校会議規程 学校業務規程 組織図 法人寄附行為 FD・SD研修会抄録

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
寄附行為を遵守して法人運営を行う。運営のために必要な学内諸規程を整備し、組織的な運営を行う。感染症対策において組織的な運営体制が整い、適切な対応が行われた。FD・SD及び外部研修などで取り上げられた「退学者ゼロ」の取り組みについて、研修を通じて各学科が情報を共有することで、様々な取り組みがなされた。	理事及び評議員からの提案、助言等を基に、コロナ禍終息後の教育環境や社会環境の変化に対応した教育内容を充実させる必要がある。学内FD・SD及び外部研修については今後も継続していく。

最終更新日付

令和8年1月15日

記載責任者

中村 秀樹

## 2-5 人事・給与制度

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか	事業計画に基づき必要な人材を確保する。勤務規程、給与規程を定めて、必要な人材の確保に努める。	人事は学校運営の状況を加味し、必要な人材を確保し、適材適所に配置している。 勤務規程および給与規程に基づき賃金を定めている。 また、働き方改革の1つである「産後パパ育休」制度を令和7年3月に活用する教員もいた。	教職員の事情に応じた多様な働き方を選択できる環境づくりを進めている。また、人事考課制度の導入等の人事に関する諸制度の整備が求められる。 校務分掌や各科の業務、担当授業によっては「産後パパ育休」の取得が難しい場合があるのが課題であるが、適材適所に人事を配置し産休・育休を取りやすい体制をとっている。	勤務規程 給与規程 職員採用規程 教職員名簿 学会参加規程 本校ホームページ 新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
職員採用規程に基づき、学校運営の状況を加味し人員の確保や配置を行っている。また、育児休暇やキャリアアップのための支援を行っている。	働き方改革の1つである「産後パパ育休」制度を令和7年3月に活用する教員もいた。

最終更新日付	令和8年1月15日	記載責任者	大神 啓裕
--------	-----------	-------	-------

## 2-6 意思決定システム

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-6-1 意思決定システムを整備しているか	会議規程を整備して、学校運営に必要な意思決定システムを定める。	会議規程に基づき、各種会議を開催し、目的別に会議を分類し役割を明確化している。 サイボウズ、Slack 及び Google などを活用することで、議事録や決定事項の迅速な情報共有を行っている。また他学科の議事録を共有することで、学科間の連携を促進し、業務の効率化を図っている。	サイボウズの活用をさらに推進し、決裁手続きや意思決定事項などの電子化を徹底し、業務効率化を図る。 すべての教職員に配慮したサポート体制を整え、教職員が安心してグループウェアを活用する環境づくりが課題である。	寄附行為 学校会議規程 理事会議事録 運営会議議事録 教職員会議議事録 各学科会議議事録 総務課会議議事録 国試課会議議事録

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
会議規程に基づき、各種会議が定期的に行われている。 サイボウズ、Slack 及び Google などを活用することで、議事録や決定事項の迅速な情報共有を行っている。また他学科の議事録を共有することで、学科間の連携を促進し、業務の効率化を図っている。	すべての教職員に配慮したサポート体制を整え、教職員が安心してグループウェアを活用できる環境づくりが課題である。

最終更新日付	令和8年1月7日	記載責任者	山口 祥子
--------	----------	-------	-------

## 2-7 情報システム

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-7-1 情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか	<p>業務の効率化を図るため、学内の情報システムを常に円滑に稼働させる。</p> <p>情報システムにおいて利用されている情報資産に対し常に高いセキュリティを維持する。</p>	<p>学内の情報システムは利用部門ごとに分割されており、情報資産への安全な利用が構築されている。</p> <p>情報資源を保護するためにバックアップサービスを導入している。</p> <p>サポート期限の終了したWindowsとMicrosoft Officeのアップグレードを実施した。</p>	<p>ICTを活用した授業が行える環境を整備していく。</p> <p>情報システムの一部クラウド化とインターネットの利用に対してITリテラシー教育を継続して実施する。</p>	<p>パソコン配置図</p> <p>無線AP情報一覧</p> <p>コンピューター使用ルール</p> <p>ウイルス感染等の防止について</p> <p>個人情報保護規程</p>

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>業務の効率化を図るためにネットワーク環境を整備している。情報資源の一部をクラウドストレージで利用しウイルスや災害時に備えたバックアップ体制を構築している。</p> <p>情報システムの運用においては、パソコン等の使用規程と情報資産に対するアクセス権限を明確に設定しセキュリティ対策を実施している。</p>	<p>ICT環境の整備と教職員のICT活用指導力の向上を継続して実施する。</p>

最終更新日付	令和8年1月15日	記載責任者	中西 代志弘
--------	-----------	-------	--------

## 基準 3 教育活動

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>教育課程の編成・実施方針、教育到達レベル、進級・卒業要件は、理念・目的・育成人材像に基づき、卒業認定の方針を達成することを目的として定めている。各学科におけるカリキュラム改正等に対応し、適正な教育課程や進級要件等になっているかを絶えず点検する。</p> <p>教育課程は、教育目的に沿って3つの分野（基礎・専門基礎・専門）に分類し、体系的に編成している。そして、外部委員が参画する教育課程編成委員会や専任教員を中心とした次年度教育内容会議を通して絶えず見直している。キャリア教育についても、学外と連携した臨床実習等の教育課程のなかに組み込まれている。また、授業評価アンケートやFD・SD研修会にて教育能力の向上に努めている。</p> <p>成績評価は、各種判定会議を開催し、学則及び履修要項の定めた基準に則り単位認定・進級・卒業を判定している。学校教育法の改正に伴い、単位制への移行へ向けた学則変更を行う。技術等の発表における成果は、実技試験、臨床実習前試験、臨床実習、臨床実習報告会等で評価している。</p> <p>資格に関しては、医療専門課程の修了者に国家試験の受験資格を与え、(高度)専門士の称号を授与している。称号付与については、教育基本法改正に基づいて学則の変更を行い令和8年度入学生から対応する。資格取得に向けて、科目担当、クラス担任及び国家試験対策課が連携して指導を行っており、国家試験出題基準の変更にも対応する。</p> <p>教員は、専修学校設置基準及び学科ごとの養成施設指定規則を満たす者を配置しており、各教員は指導力・研究力・臨床力の向上に努めている。そして、学科ごとに副校長、学科長、クラス担任等を置き、学科会議を開催して情報を共有し、組織的に活動している。</p>	<p>教育課程の編成・実施方針については、理念等に沿いながら、行政制度の改正やテクノロジーの進歩等の社会情勢の変化に対応して不断の見直しをしている。</p> <p>定期的カリキュラム改正を実施し、社会の求めに応じた医療人教育をしている。通常授業の他に、複数学科による多職種連携授業、学年間交流授業、業界役員や海外で活躍する医療人による特別講義等を実施している。また、教育アプリの活用も進めている。授業評価アンケートはGoogle Formを使用し、学生・教員双方の利便性を図っている。</p> <p>学事システムの導入により、備えるべき表簿の電子化、成績評価表や帳票作成の効率化を実現している。今後、災害対策として電子データのクラウドバックアップを導入した。</p> <p>国家資格以外にも、職業に関連した民間資格（運動指導、美容、放射線取扱 他）のセミナー等を開催して取得機会を提供している。さらに、国家試験対策課が主導して、必要に応じた補講や補習を実施している。</p> <p>教員が、学科や分掌を越えた交流ができる環境を構築しており、周辺業務にも携わることで幅広い視点やマルチタスクスキルを身に付けている。</p>

最終更新日付	令和8年1月26日	記載責任者	藤瀬 正
--------	-----------	-------	------

## 3-8 目標の設定

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	理念等(教育理念、教育目的、育成人材像)に基づき、卒業認定方針を達成するため、教育課程の編成・実施方針を定める。	外部の意見や社会のニーズを取り入れながら、理念等に沿った教育課程の編成・実施方針を定めている。	各学科におけるカリキュラム改正やモデル・コア・カリキュラムの改訂(導入)時期を的確に捉えて対応する。	学則 3つのポリシー シラバス 学校パンフレット
3-8-2 学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	学科ごとに定めた卒業認定方針の達成を目的として、教育到達レベルと進級・卒業要件を定める。	各学科、各学年で教育到達レベルを明示し、体系的な教育課程に基づいて進級・卒業要件を定めている。	教育到達レベルに対し、適正な教育課程や進級・卒業要件になっているかを絶えず点検する。	学則 履修要項 シラバス

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
理念等に基づき、卒業認定の方針針を達成するため、教育課程の編成・実施方針を定め、教育到達レベル及び進級・卒業要件を明示している。 各学科におけるカリキュラム改正等に対応し、適正な教育課程や進級要件になっているかを絶えず点検する。	教育課程の編成・実施方針については、理念等に沿いながら、行政制度の改正やテクノロジーの進歩等の社会情勢の変化に対応して不断の見直しをしている。

最終更新日付	令和8年1月26日	記載責任者	田淵 弘太郎
--------	-----------	-------	--------

## 3-9 教育方法・評価等

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	教育目的に沿った養成人材像や卒業認定の方針に基づき、その達成に向けた教育課程を体系的に編成する。	教育目的に沿って、3つの分野（基礎、専門基礎、専門）に分類した体系的な教育課程を編成している。	理学療法科は学校教育法改正に伴い教育課程を変更したため、実行状況が教育目的に沿っているかを点検する。	学則 3つのポリシー シラバス
3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか	教育課程編成委員会を開催し、外部の意見を反映する。委員は本校及び関連業界の役職者や有識者で構成する。	外部委員の参画する教育課程編成委員会や専任教員中心の次年度教育内容会議で教育課程を絶えず見直している。	令和5年度新設の歯科衛生科についても、教育課程編成委員会を開催する。	学校会議規程 教育課程編成委員会議事録 次年度教育内容会議議事録 職業実践専門課程の基本情報
3-9-3 キャリア教育を実施しているか	社会的・職業的自立に向けて、教育課程のなかで職業教育を行い、職業観を涵養する。	学外と連携した臨床実習等を含む体系的な教育課程を通じて職業観を育成している。	カリキュラム改正等に際し、キャリア教育に適した教育課程を組む必要がある。	学則 シラバス 職業実践専門課程の基本情報
3-9-4 授業評価を実施しているか	学生や教員による授業評価を実施し、教育能力の向上を図る。	学生の授業評価アンケートやFD・SD研修会を実施し、教育能力の向上に努めている。	ヒアリングを行い、アンケート内容の改良を検討する。	授業評価アンケート結果 FD・SD研修会抄録

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>教育目的に沿って、3つの分野（基礎、専門基礎、専門）に分類した体系的な教育課程を編成しており、外部委員の参画する教育課程編成委員会や専任教員を中心とした次年度教育内容会議を通して教育課程を絶えず見直している。</p> <p>臨床実習等を含む体系的な教育課程を編成してキャリア教育を実施している。</p> <p>授業評価アンケートやFD・SD研修会にて教育能力の向上に努めている。</p>	<p>定期的にカリキュラム改正を実施し、社会の求めに応じた医療人教育をしている。通常授業の他に、複数学科による多職種連携授業、学年間交流授業、業界役員や海外で活躍する医療人による特別講義等を実施している。</p> <p>また、教育アプリの活用も進めている。授業評価アンケートはGoogle Formを使用し、学生・教員双方の利便性を図っている。</p>

最終更新日付	令和8年1月8日	記載責任者	藤井 和彦
--------	----------	-------	-------

## 3-10 成績評価・単位認定等

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	学則及び履修要項で定めた成績評価・修了認定基準に従い、進級・卒業判定を行う。	各種判定会議を開催し、単位認定・進級・卒業・既修得単位認定を基準に則り判定している。	学校教育法の改正に伴い、単位制への移行へ向けた学則変更を行う。	学則 履修要項 進級判定会議議事録 卒業判定会議議事録
3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	実技科目や臨床実習を体系的に編成し、その習熟度や成果を成績に反映する。	実技試験、臨床実習前試験、臨床実習、臨床実習報告会等で成果を評価している。	実技や実習の評価が到達目標に即した内容になっているかどうかを毎年見直す必要がある。	実技審査結果 実習評価表

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
各種判定会議を開催して、基準に則り単位認定・進級・卒業を判定している。学校教育法の改正に伴い、単位制への移行へ向けた学則変更を行う。 実技試験、臨床実習前試験、臨床実習、臨床実習報告会等で成果を評価している。	学事システムの導入により、備えるべき表簿の電子化、成績評価表や帳票作成の効率化を実現している。災害対策として電子データのクラウドバックアップを導入した。

最終更新日付	令和7年12月23日	記載責任者	田中 初枝
--------	------------	-------	-------

## 3-11 資格・免許の取得の指導体制

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	各学科の医療専門課程を修了した者には、国家試験の受験資格を与え、(高度)専門士の称号を授与する。	課程修了者に、柔道整復師、はり師きゅう師、理学療法士、診療放射線技師、看護師の国家試験受験資格及び(高度)専門士の称号を与えている。	(高度)専門士の称号付与について、教育基本法改正に基づいて学則の変更を行い、令和8年度入学生の課程修了までに付随事項の準備を進める。	学則 学校パンフレット 学生募集要項
3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか	国家試験対策課を設置し、資格取得のための指導体制を構築する。	科目担当、クラス担任及び国家試験対策課の連携により、きめ細かく指導している。	令和9年度から変更されるはり師きゅう師の国家試験出題基準に対応する。	学校パンフレット

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>医療専門課程の修了者には国家試験の受験資格を与えている。(高度)専門士の称号付与については、教育基本法改正に基づいて学則の変更を行う。</p> <p>資格取得に向けて、科目担当、クラス担任及び国家試験対策課が連携して指導を行っており、国家試験出題基準の変更にも対応する。</p>	<p>国家資格以外にも、職業に関連した民間資格(運動指導、美容、放射線取扱他)のセミナー等を開催して取得機会を提供している。</p> <p>国家試験対策課が主導して、必要に応じた補講や補習を実施している。</p>

最終更新日付	令和7年12月26日	記載責任者	西野 達也
--------	------------	-------	-------

## 3-12 教員・教員組織

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	文部科学省令及び厚生労働省令に準拠した教員を確保する。	専修学校設置基準及び学科ごとの養成施設指定規則を満たす教員を配置している。	令和8年度に定員が増える学科学年(柔道整復科2年、鍼灸科1年)は、次年度の担当教員と打合せを行う。	文部科学省令 厚生労働省令 学校基本調査票
3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか	教員の経験等に応じて知識や技術の研さんが積めるように支援する。	指導力・研究力・臨床力向上のため、研修会参加の助成、学位取得の推進、FD・SD研修会や臨床研修日を設けている。	首都圏等での研修会はオンラインも活用し参加の機会を増やす。	学会参加規程 研修等の実績及び計画 FD・SD研修会抄録
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか	教員組織における業務内容や責任体制を明確にし、組織的に活動する。	学科ごとに副校長、学科長、クラス担任等を置き、学科会議を開催して情報を共有している。	教員間で教育アプリケーション等を活用し、情報共有のスマート化を図る。	学科担任表 学科会議議事録

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>専修学校設置基準及び学科ごとの養成施設指定規則を満たす教員を配置しており、各教員は指導力・研究力・臨床力の向上に努めている。</p> <p>学科ごとに副校長、学科長、クラス担任等を置き、学科会議を開催して情報を共有し、組織的に活動している。</p>	<p>教員が、学科や分掌を越えた交流ができる環境を構築しており、周辺業務にも携わることによって幅広い視点やマルチタスクスキルを身に付けている。</p>

最終更新日付	令和8年1月14日	記載責任者	坂主 充史
--------	-----------	-------	-------

## 基準 4 学修成果

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>感染症など大きな問題もなく安全な学習環境を維持しながら年間を通して学内講義、学外実習等の教育カリキュラムを順調に遂行した。学修成果については、中間試験、期末試験、進級試験、実技試験、臨床実習報告会のほか、昨年同様に学力把握のために国家試験形式の実力試験、模擬試験、卒業試験等を計画的に実施した。その試験結果を教員全体で共有し、授業、実習や補習等に生かしながら学生の学習意欲、学力の向上を図った。また、将来の夢実現のためのキャリア教育にも注力し、台湾・ハワイ海外研修の実施、全校生参加のスポーツ大会、各種セミナーでの他学科間交流等で多職種連携の理解も深めた。最上級生においては、国家試験の難易度上昇や出題傾向を考慮して全国模試の実施と解説、グループワークや個別指導による細やかな学習指導を行った。各学科の国家試験の合格率は全国平均より高く、100%～91.2%を達成した。また、学習効率を高める工夫として前学年から学習内容に応じた確認試験、模擬試験などを行い、低学年から学習意欲を促すようにしている。</p> <p>卒業生の動向や社会的評価は、校友会（本校卒業生の団体）、卒業生が勤務する実習先への訪問、研修会への参加等の機会を捉えて把握につとめている。校友会では多くの卒業生の参加を得るため魅力ある内容の講演会を企画して、多くの卒業生の動向と社会的評価の把握に努めている。</p> <p>就職活動は全国的に早まる傾向にあるが、学生は国家試験の準備等もあり、早めの就職活動は困難な面がある。就職率向上については、就職支援課に専任の就職支援担当教員を配置し、全国から集まってくる就職関連情報・求人票など収集、整理して、担任や学生と連携して速やかに閲覧できるようにしている。校友会の卒業生とはネットワークを形成し、就職活動に役立てている。一方で、就職試験、面接について、個別に相談会、模擬面接も実施し、態度・表現法などスキルアップできるよう細かな指導も行っている。令和7年度の卒業生就職率は92.6%（3月25日現在）を達成し、最終的には100%を達成する見込みである。</p>	<p>歯科衛生科では、今年度初めて3年生(1期生)が国家試験に臨むことから、学習強化対策として外部講師による基礎的・専門的講義も実施し、実力向上を図った。全国模試では下位であった成績が徐々に上昇し、第3回模試では203校中18位の成績を上げるまでに向上した。</p> <p>今年度も低学年での早期退学者ゼロを目指し、年2回のFD・SD研修の中で各学科の取組みと成果や問題点などを発表し、全学科の教員が相互に意見交換を重ねながら、より良い学生教育に向け、創意工夫を行っている。</p>

最終更新日付	令和8年3月31日	記載責任者	谷口 邦久
--------	-----------	-------	-------

## 4-13 就職率

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
4-13 就職率の向上が図られているか	<p>医療人としての礎を築くため、学生一人ひとりのニーズに応じた支援に力を注ぎ、自己実現をサポートする。</p> <p>現場で活躍する実習指導者等と連携し、今後の人材育成や採用動向の情報を収集する。</p>	<p>令和7年度の卒業生就職率は92.6%（3月25日現在）で、最終的には100%を達成する見込みである。この成果は、各科に配置された就職支援担当教員と担任が連携し、きめ細やかな支援を行った成果である。</p> <p>学内においては、学生支援室を設置し、学生がいつでも求人情報を閲覧できる体制を整えている。</p> <p>さらに卒業生が参加する校友会活動において、卒業生とのネットワークを形成し、就職活動に役立てている。</p>	<p>就職関連情報を提供し、活動を早期に取り組める環境を目指す。</p> <p>本校は全学生が国家資格取得を目指すため、就職活動と国家試験対策の両立が課題となる。学生がモチベーションを維持しつつキャリア形成に取り組めるよう、プログラムの改善や学生の積極的な取り組みへの促しが必要である。</p> <p>求人票やパンフレットなどの資料についても、学生がより効率的に閲覧・活用できるように進める必要がある。</p>	<p>学校案内パンフレット 求人情報閲覧用資料 就職先・求人先訪問データ 卒業生の就職者データ(数、率) 就職活動報告書 就職支援セミナー報告書</p>

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>令和7年度の卒業生就職率は92.6%（3月25日現在）で、最終的には100%を達成する見込みである。この成果は、各学科に配置された就職支援担当教員と担任が連携し、きめ細やかな支援を提供してきた取り組みの成果である。本校は全学生が国家資格取得を目指すため、就職活動と国家試験対策の両立が課題となる。</p> <p>求人票やパンフレットなどの資料についても、学生がより効率的に閲覧・活用できるように体制を整えていく必要がある。</p>	<p>令和7年度に歯科衛生科が完成年度（就職対象）を迎えたため、6学科を対象とする支援体制となった。</p>

最終更新日付	令和8年3月31日	記載責任者	當眞 裕樹
--------	-----------	-------	-------

## 4-14 資格・免許の取得率

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
4-14 資格・免許取得率の向上が図られているか	<p>国家資格取得に向けた取組みを入学年次から実施する。</p> <p>最上級生に対しては、模試を定期的に行い、成績が基準に満たない学生に対して補習を実施する。</p>	<p>低学年は、定期的に国家試験に準じた試験を行い、国家試験の出題範囲や傾向を把握させ、最上級生に進級した際に必要な学習内容を意識付けするとともに学習意欲の向上を図る。</p> <p>特に最上級生になる前の学年は、9月から国家試験対策課題と模擬試験を行い、早期からの学習を促す。</p> <p>最上級生は、定期的に行う模試により、学生の理解度を評価して補習内容や方法等を修正し、学生の理解力向上に努めている。</p> <p>学科によっては、学習アプリの活用や外部講師による国家試験対策の講義を実施した。</p>	<p>国家試験は年々難度が上がっており、講義形式による授業のみでは、学習内容の理解が困難な学生に対応するため、補習でグループワークや個別指導等を実施し、学生の理解力向上を図る。</p>	<p>学校案内パンフレット 国家試験合格者状況表 本校ホームページ</p>

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>国家試験の難度の上昇に対応するため、補習でグループワークや個別指導等を実施し、学生の理解力向上を図る。</p>	<p>今年度は歯科衛生科1期生が国家試験を受験するため、外部講師による国家試験対策を実施した。</p>

最終更新日付	令和8年1月7日	記載責任者	富永 忠雅
--------	----------	-------	-------

## 4-15 卒業生の社会的評価

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
4-15 卒業生の社会的評価を把握しているか	卒業生の社会的評価を把握するには、卒業生とのつながりを強固に保つ必要がある。そのために校友会を組織し、卒業生の現況と社会的評価を把握する。	卒業生と在校生、卒業生間、卒業生と教職員との交流を図ること、そして現況の把握と社会的評価についての聞き取り、フォローアップを加えること等を目的として、年2回の校友会を実施している。	卒業生の活動把握のため、校友会参加者等の情報を参考にしながら現況把握に努めていく。 今後は卒業生にとって魅力的な校友会を企画する。 卒業生が勤務している臨床(臨地)実習先への訪問や研修会への参加により、卒業生の動向と社会的評価を聴取する。	校友会名簿 学校案内パンフレット 本校ホームページ 校友会案内

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
卒業生の社会的評価を把握するには、卒業生の現況を捉える必要がある。今後は卒業生にとって魅力のある校友会を企画する。また、臨床(臨地)実習先への訪問や研修会への参加により、卒業生の動向を聴取する。	特になし

最終更新日付	令和8年1月7日	記載責任者	富永 忠雅
--------	----------	-------	-------

## 基準5 学生支援

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>就職活動を円滑に進められるよう、学生支援課ならびにクラス担任が密接に連携しながら求人情報の提供、面接試験対策等の支援体制を整えている。</p> <p>採用活動の早期化が進んでいるため、リアルタイムでの就職関連情報提供が必要である。</p> <p>学校全体で「退学者 0（ゼロ）」を目標に取り組み、退学者率を低減することができている。今後もこの取り組みを継続・充実することが重要である。学業面のサポートだけでなく、学校生活の満足度向上に努めるとともに、医療人としての人格形成と知識技術の養成を通じて社会に貢献できる人材を育成していく。</p> <p>学生相談については現状で問題はないが、相談に専門的に対応できる教職員は少なく、その養成が今後の課題である。奨学金の利用者は国の経済的な修学支援制度の多子世帯拡充もあり増加している。公的な奨学金及び高等教育の就学支援制度を利用している学生は全体の 65%となっている。奨学金制度に関する新たな情報は担当者だけでなく、教職員全体で情報共有していく。学年、学科の垣根を超えた交流を深めるため、課外活動は積極的に推進していく。</p> <p>学習状況のみならず、近年は精神的に不安定となりやすい学生が増加傾向にあり、保護者の不安も大きくなっている。保護者と密に連携を図ることで学生、保護者ともに安心できるように支援体制を整えていく。入学式や卒業式を活用し、保護者が来校する機会に合わせた支援も継続していくことで、信頼関係の構築に努めていく。</p> <p>年2回開催している校友会では初めて学科ごとに講演を行い、卒業生との交流を図った。今年度から柔道整復科Ⅱ部(午後)を開設、鍼灸科および理学療法科との同時受講が可能となり、複数の資格を最短期間で取得できるカリキュラムを編成している。</p>	<p>令和7年度に歯科衛生科を加えた、6学科を対象とする支援体制となった。歯科衛生科の令和7年度卒業生に対する求人倍率は28.2倍であった。他学科については、理学療法科71.9倍、診療放射線科11.2倍、看護科125.7倍、柔道整復科48.7倍、鍼灸科50.1倍、歯科衛生科28.2倍であった（令和8年2月18日現在）。</p> <p>就学支援新制度の多子世帯への拡充に伴い、制度の利用者は前年のほぼ2倍となっている。全学生の約55%が貸与型奨学金を、約40%が高等教育の就学支援新制度を利用している。</p> <p>校友会との連携を強化していき、卒業生への支援、就職などの情報につなげていく。医療系国家資格への関心が高まる中、複数資格取得など、学生のニーズを把握し、よりよい教育環境、また教育を維持増進できるように整備していく。令和9年度に鍼灸科Ⅱ部(午後)を開設予定。</p>

最終更新日付	令和8年2月18日	記載責任者	石橋 大輔
--------	-----------	-------	-------

## 5-16 就職等進路

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	<p>学生一人ひとりの希望進路を実現するため、情報提供の充実やキャリア形成のサポートを行う。</p> <p>学生が自ら進路を明確にし、就職活動に取り組める環境を整備する。</p>	<p>就職活動を円滑に進められるよう、学生支援室を通年開放し、求人票をはじめとする各種情報提供を行っている。</p> <p>学生支援課ならびにクラス担任が密接に連携しながら求人情報の提供、面接試験対策等の支援体制を整えている。</p> <p>学生支援課の各科担当を中心に、就職活動に関するセミナーを実施するなどして就職活動を支援している。</p>	<p>就職活動の早期化が進む中、各科に効果的な支援策を構築することが課題である。</p> <p>最終学年以前から就職関連の情報提供やサポートが必要である。</p>	<p>組織図 学校案内パンフレット 就職試験報告書 就職試験内容記録 本校就職関連小冊子</p>

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>就職活動を円滑に進められるよう、学生支援室を通年開放し、求人票をはじめとする各種情報提供を行っている。</p> <p>学生支援課ならびにクラス担任が密接に連携しながら求人情報の提供、面接試験対策等の支援体制を整えている。</p> <p>採用活動の早期化が進んでいるため、最終学年以前から就職関連情報提供やサポートが必要である。</p>	<p>令和8年3月卒業生に対する就職求人倍率は、理学療法科 72.9 倍、診療放射線科 11.8 倍、看護科 125.7 倍、柔道整復科 49.8 倍、鍼灸科 50.2 倍、歯科衛生科 29.2 倍であった（令和8年3月26日現在）。</p>

最終更新日付	令和8年3月26日	記載責任者	當眞 裕樹
--------	-----------	-------	-------

## 5-17 中途退学への対応

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-17-1 退学率の低減が図られているか	<p>学生の退学要因となる様々な要因（経済的困窮、学業の遅れ、人間関係、進路迷いなど）を早期に発見し、学生と共に課題を整理し解決できるように、学生の一人ひとりに寄り添う支援を提供する。</p> <p>方針：1クラスに複数名の担任を配置するとともに、学内に学生支援室を設置し、学生が安心して学生生活を送れるように、複数の支援チャンネルを提供し、学習支援、メンタル支援などの個別支援が提供する。</p> <p>また、積極的な三者面談等の機会を設け、家庭との連携構築を図り、学校・家庭とともに協調して学生が有意義な学校生活を過ごせるようにする。</p> <p>目標：「退学者 0（ゼロ）」を学校全体の目標として掲げ、一人一人の学生が学校生活を楽しく円滑に過ごせることを目標とする。</p>	<p>「退学者 0（ゼロ）」を教員全員の目標とし、学生が有意義な学校生活を送れるよう以下の支援に取り組む。</p> <p>特に、新入生に対して、早期に学習や学生に馴染めるようにスポーツ大会、勉強会やレクリエーション等を実施している。</p> <p>教員も毎年、授業内容の改善を図り、わかりやすく興味を持てる授業を提供することで退学者減少に向けた対策を行い、その成果や課題をSD研修会等で全教員が共有し、質の高い教育ができるようにしている。</p> <p>学習面では、成績が伸び悩む学生に対し、家族も含めた面談を実施し、情報共有と学習面の課題に対する対策を講じている。</p> <p>経済面では、高等教育の修学支援新制度等の奨学金などの活用を積極的に促し、学修に専念できるようにしている。</p> <p>これらのことは、定期的な学科会議や運営会議等で情報共有し、学校全体で対策や課題を共有し、退学者 0 に努めている。</p>	<p>退学者 0（ゼロ）に向けた ①定量的目標、②定性的目標、③早期介入目標を定め、年度ごとに教員の意識を新たにする。</p> <p>1年生の退学率、学校全体の退学率は前年よりも減少しているが、継続的に退学率低減に向けて、学校全体での取り組みを継続する。</p> <p>入学前に入学予定者登校日を設け、健康医療に携わる職業意識の確認と在校生も交えての交流を図る。</p> <p>入学後は健康医療系の学業に興味を深め、馴染めさせることを教員が常に意識しながら対策を講じる。</p> <p>学内セミナーの充実や学科の垣根を超えた合同授業、卒業生を招いた特別講義などを積極的に実施し、職業観を深める。</p> <p>学習面、生活面、経済面の問題解決に向けたサポートを、担任、担当教員、担当課で適切に対応できる組織力を構築する。</p>	<p>組織図 学生個人連絡票 Campus Magic FD・SD 研修会抄録 学生面談記録 各科内会議議事録 教職員会議議事録 学校ホームページ・SNS</p>

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学校全体で「退学者 0（ゼロ）」を目標に、全教員で取り組んできた結果、退学者率を低減することができている。これからも教員が常に学生の最善の教育や支援を提供することを意識し、さらなる改善を図るとともに、教員自体も個々の素養や資質を高め、学校の目標として、退学率0に向けての取り組みを継続・充実することが重要である。</p> <p>健康医療分野の国家資格を取得する人材の育成には、職業に対する技能や知識を形成するための学業面のサポートだけに止まらず、学生個人の資質や人格を高め、有意義な学生生活を送れるとともに将来に渡り、社会に貢献できる人材が育成できるように学生を支援していくことが重要である。</p> <p>学校生活の満足度向上に努めるとともに、医療人としての人格形成と知識技術の養成を通じて、退学率の低減と国家資格取得率の向上に努める。</p>	なし

最終更新日付	令和8年1月8日	記載責任者	川島 英敏
--------	----------	-------	-------

## 5-18 学生相談

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか	<p>学生が抱える問題や悩みは、多種多様であり、傾向も年々変化し、複雑化している。学生には何か問題が生じた場合には、報告を行うことを徹底している。</p> <p>問題が起きた場合は、教職員全員で対策を考え、迅速に対応する。</p> <p>安心して有意義な学生生活を送れるように、学習面、経済面及び健康面をサポートしていく。</p>	<p>複数担任制により学生とのコミュニケーションを図りやすいようにし、学習面、出席状況などに注視し、問題を抱えた学生の早期発見に努めている。</p> <p>学生支援室を設置し、奨学金の活用など経済的な問題、就職等の相談に担当職員が対応している。</p> <p>県の消費者センターからの最新の情報は学生全体に配信し共有している。</p> <p>健康面については付属臨床施設（クリニック、整骨院、鍼灸院）にて日常の健康状態、検診結果による指導など学生の健康面もサポートしている。</p>	<p>学生からの相談も LGBTQ など性に関するもの、ネット問題など多様化している。しかし、専門的なアドバイザーがおらず、今後、それらの問題に対応できる教職員の養成が必要である。</p> <p>奨学金利用者は国の経済的な修学支援制度の多子世帯拡充もあり増加している。担当者だけでなく、教職員全員が理解し対応できるよう、SD 研修会など学内勉強会を実施していく。</p> <p>外部からの啓発情報は classroom を通じて学生への周知を継続する。</p>	<p>組織図 課内会議議事録 学生支援室日誌 学生支援室利用簿 学生面談記録 学生要覧 FD・SD 研修会 Classroom 日本学生支援機構奨学金制度</p>
5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか	<p>相談対応できる教職員を配置し、受け入れ時や在学中の支援体制を整備する。</p>	<p>現在、留学生の在籍なし。</p> <p>(過去の実績) 韓国からの留学生 1 名 (令和 5 年 3 月 診療放射線科卒業 同年同月 国家試験合格)</p>	<p>今後、留学生の受け入れ、在学中のサポートが円滑にできるよう体制を整えていく。</p>	<p>中長期在留者の受入れに関する届出 留学生調査票</p>

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>各クラスに複数の担任を置き学生対応を密に行った結果、大きな問題はなかった。しかし、相談に専門的に対応できる教職員は少なく、その養成が今後の課題である。</p> <p>奨学金の利用者は国の経済的な修学支援制度の多子世帯拡充もあり増加している。学費など経済的な相談に対し担任と奨学金担当で情報を共有しながら対応している。奨学金制度も年々変わっていくため、新たな情報は担当者だけでなく、教職員全体で情報共有していく。</p>	<p>就学支援新制度の多子世帯への拡充に伴い、制度の利用者は前年のほぼ2倍となっている</p>

最終更新日付	令和7年12月28日	記載責任者	石橋 大輔
--------	------------	-------	-------

## 5-19 学生生活

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	<p>経済的問題により学校へ通うことができなくなることがないように日本学生支援機構の奨学金を利用できるように情報を公開していく。</p> <p>学生からの質問に答える機会が多いのは担任となるため、担任に対しても奨学金制度の基本的な理解ができるよう情報を共有できる体制づくりをしている。</p> <p>資格取得に向け、安心して有意義な学生生活を送れるようサポートしていく。</p>	<p>経済的支援として日本学生支援機構の奨学金及び高等教育の修学支援新制度を整備している。</p> <p>高等教育の就学支援制度の利用を推奨しており、状況によっては保護者と連絡を密に取り、情報の提供や手続き方法等を説明し、広く利用できるよう努めている。</p>	<p>今年度より多子世帯による支援が変更となり多くの申込者があった。そのため業務量が倍増しチェックの精度が低くなってしまい、間違えて申請する学生も散見された。</p> <p>説明会の時点で間違いやすい点、ポイントを絞り、丁寧な説明を心がける必要がある。</p>	<p>本校ホームページ 日本学生支援機構ホームページ 文部科学省ホームページ 厚生労働省ホームページ 福岡県庁ホームページ</p>

<p>5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか</p>	<p>定期健康診断を全学生に対し年1回実施する。 また、各種予防接種も併設のクリニックで接種できること、体調不良や怪我等があれば併設のクリニック・整骨院・鍼灸院にて、すぐに受診がきることを学生に周知徹底していく。 感染症対策として手洗いの励行、マスクや予防接種等を積極的に案内する。</p>	<p>年度初めに全学生を対象に行う健康診断を実施し、体調管理を徹底している。 欠席や遅刻連絡は学生が連絡しやすいように学科ごとに連絡先を分けて準備しており、各科の教員が窓口となって対応している。そのため教員間で情報の共有をしやすい環境を整備している。</p>	<p>体調がよくない場合は病院の受診を推奨している。病院の受診結果を総合的に判断し、学生対応するようにしている。 必要に応じて保護者に連絡を入れるようにしているが、学生と連絡が繋がらなくなるケースも散見されるため、その際には保護者と連絡を密に取るよう対策している。</p>	<p>組織図 健康管理規程 見舞金申請書 学生要覧</p>
<p>5-19-3 学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか</p>	<p>遠隔地から就学する学生、保護者が安心して不安なく学生生活を送れるよう、また学習にも取組めるような環境を整備する。</p>	<p>提携寮を4か所(男子寮1か所、女子寮1か所、共同寮2か所)指定している。 寮母常駐・食事付き等、学生と保護者が共に安心できる環境を整えている。オープンキャンパス参加者に対しても寮見学を実施しており、遠方からの就学に対する不安の低減に努めている。</p>	<p>入学時に生活環境の変化のため、体調不良や朝起きれない学生がみられることがある。入寮者に対しては寮母と連携を取り対応している。担任からも連絡を入れ、生活のリズムを整えるように対応している。 また、入寮生の欠席が長引いた場合は寮母に様子を確認したり、直接担任が寮を訪問したりする等の対応を実施している。</p>	<p>本校ホームページ 学校パンフレット 学生寮パンフット</p>

<p>5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか</p>	<p>クラブ活動や課外活動を積極的に推奨している。クラブ活動については年度当初の活動日を学生全体へ発信し情報を共有している。全学科が平等に参加しやすい体制を整備している。</p> <p>その他、救護活動やボランティア活動も積極的に推奨している。</p>	<p>各部活動が専門学校体育大会に参加しやすいよう、時間割や授業計画を工夫して運営を行っている。その結果、今年度も多くの競技種目へのエントリーが実現した。</p> <p>また、福岡マラソン 2025 のボランティア活動にも取り組み、多くの学生が主体的に参加している。今後も引き続き、次年度においても課外活動がより充実するよう、積極的な支援を行っていききたい。</p>	<p>各学科の授業終了時間が異なるため、クラブ活動開始時間の設定が難しい。公共施設を利用しての活動が多くなるため、全学科授業終了後の実施は困難であることが多い。それでも一人でも多く参加できる時間を模索し、協力して活動していく。</p> <p>クラブ活動以外でも救護活動やボランティア活動についても広く学生に周知させ、より多くの学生に参加してもらえよう実施していく。</p>	<p>本校ホームページ 学校パンフレット 学生要覧 救護ボランティア報告書</p>
------------------------------------	--	---	--	---

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>公的な奨学金及び高等教育の就学支援制度を利用している学生は全体の65%となっている。</p> <p>学生寮に関しては提携寮を設置し、遠方からの就学生・保護者に対し就学不安の低減に努めている。</p> <p>課外活動は今後も継続的に募集・告知を続け、学年、学科の垣根を超えた交流を深めていく。</p>	<p>全学生の約 55%が貸与型奨学金を利用している。</p> <p>全学生の約 40%が高等教育の就学支援新制度を利用している。</p>

最終更新日付	令和 8 年 1 月 8 日	記載責任者	柿木 邦友
--------	----------------	-------	-------

## 5-20 保護者との連携

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-20-14 保護者との連携体制を構築しているか	<p>学生の学習面や学校生活に変化や気になることがあれば、学生本人だけでなく迅速に保護者とも状況を共有し、協力して解決していく。</p>	<p>学生個人連絡票と連絡網を毎年作成・更新し、平時だけでなく緊急時もすぐに保護者と連絡が取れるよう整備している。このことにより家族背景での変化にも気づきやすく、自分から言い出せない学生の状況も把握できる。</p> <p>各定期試験後には、成績等に応じて保護者を含めた三者面談を実施し、学習面や学校生活の情報共有に取り組んでいる。また、無断欠席や学生との連絡が取れない状況においては保護者へ連絡を行い、速やかに学生の安全確認を行っている。</p> <p>奨学金に関する保護者からの問い合わせに関しては学生支援課を窓口として入学予定者登校日や入学式から対応を常時行っている。</p>	<p>保護者の来校が困難な場合には、Zoomなどのオンラインツールや書面を利用して情報を共有しているが書面での状況報告だけでは、保護者の理解状況が把握できないケースもあるため、今後も密に保護者とコミュニケーションを取り、必要な情報が確実に共有されるように取り組んでいく。</p> <p>一人暮らしの学生の保護者は来校機会が限られるため、入学式での奨学金対応の継続も保護者のニーズ充足に効果的と捉え、継続する。</p>	<p>学生個人連絡票 学生連絡網 学生面談記録</p>

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学習状況のみならず、近年は精神的に不安定となりやすい学生の傾向もあり、保護者の不安も大きくなっている。そのため、今後も密に連携を図ることで学生が安心して学校生活を送れるようするとともに、保護者も安心できるように支援体制を整えていく。入学式や卒業式を活用し、保護者が来校する機会に合わせた支援も継続していくことで、信頼関係の構築に努めていく。</p>	<p>特になし。</p>

最終更新日付	令和7年12月24日	記載責任者	大森 幸江
--------	------------	-------	-------

## 5-21 卒業生・社会人

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか	<p>校友会を組織し、卒業生と教職員及び在校生の連携が取れる環境を整える。</p> <p>求人情報の交換やキャリアアップの支援が実施できる環境を整える。</p>	<p>校友会を6月と11月に実施し、卒業生および教職員・在校生が参加している。校友会では外部講師(本校卒業生を含む)を招いた講演や就職相談を実施している。</p>	<p>卒業生の参加率が低迷している。また、学科によって偏りもみられる。より多くの卒業生が興味を持って、積極的に参加していただけるような内容を検討していく必要がある。</p>	<p>本校ホームページ</p>
5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか	<p>在学時から関連団体の学会等に参加し、卒業後も各団体の学会や研修会への参加を促す。</p> <p>校友会と連携しながら、各団体より外部講師を招聘し、卒業生を対象に技術講習会や勉強会を実施する。</p>	<p>在学時から関連団体や企業と連携を図り、講演会や研修会に参加している。</p> <p>また、関連団体の研修会や卒業生が主催する勉強会の際には、本校の施設を会場として提供している。</p>	<p>卒業後のキャリアにおいて、常に知識や技術の更新が求められる。今後、さらに学校と関連団体や企業が連携し、ニーズにあったプログラムの開発に取り組む必要がある。</p>	<p>学校案内パンフレット 本校ホームページ</p>
5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	<p>社会人は、キャリアアップやスキル向上を目的として入学することが多いため、より実践的な内容が学べる環境を整備する。</p> <p>また、仕事と学業を両立させられるようなカリキュラムの整備が必要である。</p>	<p>正規課程とは別に、より実践的な内容が学べるコースの設置やセミナーを実施し、即戦力となるための知識や技術が学べる環境を整えている。</p> <p>また、令和7年度より柔道整復科【午後】を開設し、鍼灸科および理学療法科との同時受講が可能となっている。</p>	<p>幅広い年齢層の学生が同じ教室で学習するため、授業の内容や進行が社会人のニーズに合わなくなることも考えられる。社会人のニーズを踏まえたセミナーを実施するなど、より実践的な知識や技術が学べる環境を拡充していく。</p> <p>また、令和9年度より、鍼灸科【午後】開設に向けて承認申請中である。</p>	<p>学校案内パンフレット 本校ホームページ セミナー予定表</p>

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>今年度は校友会を 2 回開催し、学科ごとの講演や就職相談を通じて卒業生との交流を図った。また、関連団体や企業と連携し、学会や講演会に参加した。さらに、柔道整復科【午後】の開設により、鍼灸科および理学療法科との同時受講が可能となり、複数の資格を最短期間で取得できるカリキュラムを編成している。</p>	<p>医療系国家資格への関心が高まる中、今後も社会人の入学が予想される。社会人学生のニーズを把握するとともに、よりよい教育環境、教育を維持増進できるように整備していく必要がある。</p> <p>また、卒業生への支援や情報収集ができるように、校友会との連携をさらに強化していく必要がある。</p>

最終更新日付	令和 7 年 12 月 28 日	記載責任者	岩瀬 惇平
--------	------------------	-------	-------

## 基準 6 教育環境

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>施設、設備については、設置基準等を十分に満たしており、教育課程上で必要な施設・設備・教育用具等を整備するとともに定期的に点検している。また、令和9年度の鍼灸科定員増に伴い、施設・設備等を整備している。</p> <p>学外実習は、臨床実習指導者会議で到達目標や実習評価等の認識を共有し、教育課程に沿って体系的に実施している。</p> <p>次年度の海外研修は2か国から選択できる。急速に変化する国際情勢に対応しながら、研修先の開拓や研修内容の更新を推進する。</p> <p>防災については、消防計画に従い施設・設備検査と防災訓練を実施するとともに、火災発生時のマニュアルを整備している。防災管理強化のため、4号館の防災監視設備の大幅な改修工事を行った。</p> <p>安全管理については、学生・学校向け保険に加入し、怪我人・病人対応マニュアルを整備している。情報共有アプリを活用して、安全管理の情報を発信する。</p>	<p>共同学習室や図書館内のラーニングコモンズ、複数の多目的室を備え、グループ学習等を推進する環境を整えている。昨年度は、歯科衛生科の教育環境を更に充実するため歯科ユニットを増設し、1号館のエアコンを交換して学習環境の向上と環境負荷の低減を図った。</p> <p>臨床実習前評価の実施により、学生が安全かつ効果的に学外実習を行うための知識、技能、態度が身についているかを確認・保証している。</p> <p>解剖見学実習は全学科で実施している。実際の観察により人体の立体構造や機能、個人差を理解し、医療従事者の倫理観等を醸成する場となっている。海外研修は他国の医療を体感し改めて自国を理解する機会となっている。</p> <p>緊急時の連絡網や安全管理の情報共有の手段として、従前の電話連絡網に加え、情報共有アプリやメール、インターネットを活用している。</p> <p>インフルエンザワクチンの早期接種の実施など、現在の感染状況に即した安全衛生管理を行っている。</p>

最終更新日付	令和8年1月26日	記載責任者	藤瀬 正
--------	-----------	-------	------

## 6-22 施設・設備等

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
6-22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	専修学校設置基準及び養成施設指定規則等を満たす施設・設備・教育用具等を整備する。 教育課程上で必要となる施設・設備・教育用具等を備える。	方針に則り施設・設備・教育用具等を整備しており、定期的 に点検している。 鍼灸科定員増に伴い、施設・ 設備等を整備している。	5号館や4号館の老朽化に伴 い、校舎改築を検討する必要が ある。 電話主装置の経年劣化に伴 い交換を行う。	校舎各室の用途・面積一覧表 機械器具・標本・模型の目録 教育用機器備品チェック表

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
設置基準等を十分に満たしており、教育課程上で必要な施設・設備・教育用具等を整備するとともに定期的に点検している。 令和9年度の鍼灸科定員増に伴い、施設・設備等を整備している。	共同学習室や図書館内のラーニングコモンズ、複数の多目的室を備え、グループ学習等を推進する環境を整えている。 歯科衛生科の教育環境を更に充実するため、歯科ユニットを増設した。 1号館のエアコンを交換し、学習環境の向上と環境負荷の低減を図った。

最終更新日付	令和7年12月26日	記載責任者	西野 達也
--------	------------	-------	-------

## 6-23 学外実習、インターンシップ等

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	教育課程に沿って、学外の臨床実習施設と連携し、職業教育を体系的に行う。 多様性とグローバルな視点を育むために海外研修を実施する。	臨床実習指導者会議を開催して到達目標や実習方法等の認識を共有し、教育課程に沿って体系的に学外実習を実施した。 海外研修先は2か国を維持している。	医療従事者として常に感染症対策を施す必要がある。 社会情勢を意識し海外研修先の選定やオンライン等の代替技術を継続していく。	シラバス 臨床実習マニュアル 実習指導者会議議事録 学校パンフレット

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
臨床実習指導者会議を開催して到達目標等を共有し、教育課程に沿って体系的に学外臨床実習を実施した。 学外実習のための実習前評価を行うことにより、感染症対策を含めた知識技術の基礎水準を維持している。 国際情勢を鑑みて海外研修先は2か国とし研修先の選択肢を維持する。	学内講義から学外解剖学実習により「聞く・見る・触る」の効果的な知識技術を得られる。 学外実習により現場を視野に入れ、基本的医療技術としての感染症対策の水準を継続していく。 海外研修については国際情勢に気を配り研修国の変更など柔軟に対する。

最終更新日付	令和8年1月22日	記載責任者	仲濱 毅
--------	-----------	-------	------

## 6-24 防災・安全管理

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	消防計画を定め、法令に従った施設・設備の検査や防災訓練を行う。 教職員と学生が災害時に迅速な行動をとれるようにする。	消防計画に従い、検査と訓練を実施しており、火災発生時のマニュアルを整備している。 防災管理強化のため、4号館の防災監視設備の大幅な改修工事を行った。	総合訓練の実施を省み、より安全な防災環境を目指して、防災設備や避難経路の改善を行っていく。	消防計画 消防用設備等点検結果報告書 総合訓練任務分担表 総合訓練実施報告書 火災報知器フローチャート 学科連絡網 学生連絡票
6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	学校生活で起きうる危険や事故等に関するリスク管理を行う。 教職員と学生が緊急時に人身の安全を第一とした適切な対応をとれるようにする。	学生・学校向けの保険に加入し、リスクに備えている。 怪我人・病人対応マニュアル等を整備して、教職員と学生に発信し、安全管理に努めている。	安全管理に関する福岡県等からの情報提供や、新しい情報の更新が増えているので、情報共有アプリを活用して、学生や教職員へ最新情報を発信する。	学生生徒災害傷害保険加入証 学校賠償責任保険加入証 医療分野学生生徒賠償責任保険加入証 怪我人・病人対応マニュアル

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
消防計画に従い施設・設備検査と防災訓練を実施するとともに、火災発生時のマニュアルを整備している。防災設備や避難経路を改善し、より高い防災管理を目指す。 学生・学校向け保険に加入し、怪我人・病人対応マニュアルを整備している。情報共有アプリを活用して、安全管理の情報を発信する。	緊急時の連絡網や安全管理の情報共有の手段として、従前の電話連絡網に加え、情報共有アプリやメール、インターネットを活用している。 インフルエンザワクチンの早期接種の実施など、現在の感染状況に即した安全衛生管理を行っている。

最終更新日付

令和8年1月5日

記載責任者

林 賢一

## 基準 7 学生の募集と受入れ

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>進路ガイダンスへの参加者数を増やすとともに、オープンキャンパスへの参加を促すことにより、個々の受験生に対して医療系職種の特徴や入試に関する情報を提供している。また、受験生が必要とする情報の取得を容易にするため、ホームページや SNS による情報発信を一層強化・拡充している。オンラインによる学校説明会・入試説明会は遠隔地居住者に対する負担軽減及び情報提供という点において重要性が高いため、今後も定期的を実施する。</p> <p>Web 出願手続き内容の改善を継続的に行っている。オンライン入試（総合型選抜）及び熊本県・宮崎県・沖縄県で実施している県外入試は、遠隔地に居住する受験生の負担軽減及び利便性向上を目的として、引き続き実施する。</p> <p>入学者選抜においては、各学科が掲げるアドミッション・ポリシーをもとに総合的に評価し、合否判定会議で公正に選考している。また、入学選考に関する実績と在学時の成績についての相関を、本校独自の学事システム（キャンパスマジック）を用いてさらに詳細に分析することで授業内容の改善や出席率の向上、退学率の低減等に活用している。</p> <p>現在の学納金は、教育内容に見合った適切な水準に設定されているため、次年度も据え置く。令和 7 年度からは「理学療法科＋柔道整復科」、または「鍼灸科＋柔道整復科」の同時受講が可能となり、さらに令和 9 年度からは「理学療法科＋鍼灸科」の組合せも加わることになる予定である。同時受講期間中は、片方の学科の学納金（入学金・授業料・施設費）を徴収しない方針である。</p>	<p>令和 8 年の進路ガイダンス参加数は 500 件を目標とする。</p> <p>学納金については、卒業までに納付が必要となる金額をすべて、学生募集要項に明確に記載している。入学辞退者に対する授業料等の返戻取扱いについては、平成 18 年度文部科学省通知の趣旨に沿い、学生募集要項に明記した上で適正に対応している。</p>

最終更新日付	令和 8 年 2 月 2 日	記載責任者	滝沢 哲也
--------	----------------	-------	-------

## 7-25 学生募集活動は、適正に行われているか

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか	<p>本校の教育活動や各医療職種の特徴を高等学校等に情報提供する方針である。</p> <p>それによって、医療職種に関する職業理解を深め、将来の進路選択やキャリアビジョン形成の一助となるよう、継続的に情報提供を行う。</p>	<p>進学ガイダンスに積極的に参加した。(令和7年は493件のガイダンスに参加し6300名と接触)その際、個々人の質問に適切に答えるために、参照資料を活用した。</p> <p>また、インターネットを利用した情報発信手段として、オンラインによる学校説明会・入試説明会を随時行っている。オンラインによる説明会では一人一人個別の質問に対応し、本校及び各医療職種の特徴や入試情報など各種資料を用いて情報を提供している。</p>	<p>進学ガイダンスで高校生に接触した際、医療系職種に一人でも多くの生徒が興味を抱き、オープンキャンパスへの積極的参加を実現できるよう充実した対応を行う。</p> <p>また、ホームページやSNSを通じた情報発信の強化、各コンテンツの一層の拡充を図る必要がある。特にホームページは受験生が必要とする情報を取得しやすいように修正を加える。</p> <p>オンラインによる説明会については、遠隔地居住者に対する負担軽減及び情報提供という点において重要性が高いため、今後も定期的実施する。</p> <p>対面型のオープンキャンパスを行う場合は、来校者の個別ニーズに応じたプログラムを設定し、適切な情報提供を行う。</p>	<p>学校案内パンフレット 学生募集要項 就職支援室リーフレット 国家試験受験後の感想 国家試験合格速報 オープンキャンパス案内チラシ カフェ&amp;イートチケットプレゼント企画チラシ 令和7年4月開設 柔道整復科(午後)チラシ 令和9年4月開設 鍼灸科(午後)チラシ 県外入試告知チラシ 本校ホームページ SNS(X、Instagram、LINE、Facebook、YouTube) 高校訪問報告書 ガイダンス報告書 整骨院・鍼灸院訪問報告書 オープンキャンパス来場者アンケート</p>

<p>7-25-2 学生募集活動を適切かつ効果的に行っているか</p>	<p>専修学校各種学校協会の指針に沿うとともに高等学校の理解を得て、適切に行う方針である。また、募集活動時に発信する内容は、理解しやすく明瞭なものであるように努める。</p> <p>Web 出願手続きの利便性の向上を図り、遠隔地居住者に対する負担軽減に引き続き取り組む。</p>	<p>専修学校各種学校協会の指針に基づき、かつ高等学校の理解を得て、適切に行っている。</p> <p>Web 出願手続きについては、入試日が 10 月上旬の場合、出願期間が短くなり受験生の不便を招くケースが過去にあったため、Web 出願サイト開設期間を設け、出願書類の準備を早めに行うことができるようにしている。</p> <p>遠隔地居住者に対する負担軽減策として、理学療法科・看護科・柔道整復科・鍼灸科・歯科衛生科を対象にした入試、オンライン（総合型選抜）を実施してきた。また、熊本県・宮崎県・沖縄県で各 2 回の県外入試を実施している。</p>	<p>Web 出願手続きについては、出願期間前に準備可能な項目を増やすことで、期間内に行う手続きを軽減し、受験生の利便性向上を図る。</p> <p>遠隔地居住者に対する負担軽減策として実施している入試、オンライン（総合型選抜）については、毎年一定の受験生に利用されていることを踏まえ、次年度も継続して行う。</p> <p>県外入試も今年度と同様、熊本県・宮崎県・沖縄県で各 2 回実施する予定である。</p>	<p>学校案内パンフレット 学生募集要項 就職支援室リーフレット 本校ホームページ SNS（X、Instagram、LINE、Facebook、YouTube） 福岡県専修学校各種学校協会の通達文書</p>
-------------------------------------	---	--	--	---

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>進路ガイダンスへの参加数を増やすとともに、オープンキャンパスへの参加を促すことによって、個々人に対して医療系職種の特徴や入試に関する情報を提供している。また、受験生が必要とする情報の取得を容易にするため、ホームページ、SNS を通じた発信をより強化・拡充する。オンラインの学校説明会・入試説明会は遠隔地居住者に対する負担軽減及び情報提供という点において重要性が高いため、今後も定期的実施する。</p> <p>Web 出願手続き内容の改善を継続的に行う。入試のオンライン（総合型選抜）及び熊本県・宮崎県・沖縄県における県外入試は、遠隔地に居住する受験生の負担軽減及び利便性向上を目的として継続実施する。</p>	<p>令和 8 年の進路ガイダンス参加数は 500 件を目標とする。</p>

最終更新日付	令和 8 年 1 月 15 日	記載責任者	館原 宗幸
--------	-----------------	-------	-------

## 7-26 入学選考

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
7-26-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	<p>入学試験委員による入学試験委員会を開催し、入学選考に関する規程を定め、学生募集要項に選考方法等を明記し適切に運用する。</p> <p>受験者の利便性を考慮し、学生募集要項は紙面及びホームページ上に掲載する。</p> <p>変更・追加等がある場合は、これを速やかに告知する。</p>	<p>学生募集要項に、各学科が掲げるアドミッション・ポリシーを明記している。</p> <p>選考においては、アドミッション・ポリシーをもとに、学習意欲、協調性、コミュニケーションをとるに足るだけの基礎学力を有するかどうか等を総合的に評価し、判断している。</p> <p>また、入試日程を増加することで、より公平な選考を受けられるよう配慮するとともに、遠隔地在住の受験生と近隣在住の受験生との受験に係る移動時間や費用等の負担の格差を軽減すべくオンライン入試を実施しているが、さらに今年度は、オンライン入試の日程を拡充した。</p>	<p>大学入学者選抜要項に規定されている(1)基礎的・基本的な知識・技能(2)思考力・判断力・表現力等の能力(3)主体性をもって多様な人と協働して学ぶ態度、の3つの要素を評価するにあたって、本校はアドミッション・ポリシー並びに試験科目を制定している。</p> <p>また次年度は、受験から入学までの手続きを見直し、不必要な紙類の提出を省くなど、受験生の負担軽減を図る。</p>	<p>学校案内パンフレット 学生募集要項 入学選考資料 入学試験に関する規定 本校ホームページ</p>

<p>7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか</p>	<p>入学選考に関する情報や実績は正確に把握・記録し、適切に管理する。 学生個人ファイルに保管されている入学願書等の情報を活用することで、資格取得率や就職率の向上、退学者数の低減につなげる。</p>	<p>個人情報に関わる内容であるので、その取扱いについては専門部署を設け、担当者が適切に管理している。 学生個人ファイルの情報は、在学中の面談等において、学生の現状および既往を把握するために活用している。</p>	<p>入学選考に関する実績や、在学時の成績などの膨大なデータの相関を、本校独自の学事システム（キャンパスマジック）を導入することでさらに詳細に分析し、授業内容の改善や出席率の向上、退学率の低減等に活用している。</p>	<p>受験者数の推移表 入学選考資料 学生個人ファイル</p>
--	---	--	---	---

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>入学者選抜においては、各学科が掲げるアドミッション・ポリシーをもとに総合的に評価し、合否判定会議で公正に選考している。 入学選考に関する実績と在学時の成績についての相関を、本校独自の学事システム（キャンパスマジック）を用いてさらに詳細に分析することで授業内容の改善や出席率の向上、退学率の低減等に活用している。</p>	<p>特になし。</p>

最終更新日付	令和7年12月24日	記載責任者	佐藤 豪介
--------	------------	-------	-------

## 7-27 学納金

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか	<p>学納金は教育内容にふさわしい、適切な水準に定めることを方針とする。</p> <p>年間諸経費を明記して、入学者が卒業までに必要な経費をすべて明示する。</p>	<p>現在の学納金は、全6学科ともに、教育内容にふさわしい適切な水準に定められているため、次年度もこれを据え置く。</p> <p>なお、令和7年4月に柔道整復科【午後】を開設したことにより、理学療法科+柔道整復科、もしくは鍼灸科+柔道整復科の同時受講が可能となった。さらに令和9年4月には鍼灸科【午後】の開設を予定しており、理学療法科+鍼灸科の同時受講も可能となる。同時受講期間中については片方の学科の学納金（入学金・授業料・施設費）を徴収しないため、短期間かつ低コストで複数の資格取得を目指すことが可能となっている。</p>	<p>物価の上昇が続いており、経費の内容を見直すことでコスト増を吸収し、教育の質の低下を招かぬよう努めているが、今後、施設・設備の拡充や、教育課程の変更による臨地実習時間数の増加、また教材費及び実習衣・実習用具費等の価格上昇により、必要経費が増加する可能性がある。</p> <p>その際には、適正な範囲内で学納金の見直しを行い、受験希望者に対してその理由を明確に説明する。</p>	<p>学生募集要項 本校ホームページ 柔道整復科【午後】開設チラシ 同時受講時の学納金および年間諸経費納付額表 鍼灸科【午後】開設チラシ</p>
7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱いを行っているか	<p>入学辞退者に対する授業料等の取扱いは、平成18年度文部科学省通知の趣旨に沿って適正に対応する。</p>	<p>入学辞退者に対する授業料等の返戻取扱いについては、学生募集要項に明記し適正に対応している。</p>	<p>本人・保護者・保証人等から学納金返戻に関する問い合わせがあった場合は、学生募集要項を用いて十分な説明を行うことにより、取扱いに関する周知を図る。</p>	<p>学生募集要項 本校ホームページ</p>

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>現在の学納金は、教育内容にふさわしい適切な水準に定められているため、次年度もこれを据え置く。令和7年度より理学療法科＋柔道整復科、もしくは鍼灸科＋柔道整復科の組合せで同時受講が可能となり、さらに令和9年度からは理学療法科＋鍼灸科の組合せも加わることになるが、同時受講期間中については片方の学科の学納金（入学金・授業料・施設費）を徴収しない。</p> <p>物価の上昇が続いているが、現在は経費の内容を見直すことでコスト増を吸収し、教育の質の低下を招かぬよう努めている。ただし今後、施設・設備の拡充や、教育課程の変更による臨地実習時間数の増加、また教材費及び実習衣・実習用具費等の価格上昇により、学納金の見直しを行う可能性があるが、その際には受験希望者に対して理由を明確に説明する。</p>	<p>卒業までに納付が必要となる学納金及び年間諸経費について、学生募集要項に明確に記載している。</p> <p>入学辞退者に対する授業料等の返戻取扱いについては、平成18年度文部科学省通知の趣旨に沿い、学生募集要項に明記した上で適正に対応している。</p>

最終更新日付	令和8年1月15日	記載責任者	諸岡 大輔
--------	-----------	-------	-------

## 基準 8 財務

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>全国平均を上回る良好な財務状況を背景に、新コース設置等の教育投資を計画的に進め、募集力強化を図っている。今後は財務分析結果の学内共有を徹底し、教職員の当事者意識を高めることで、財務の健全性維持と教育の質の向上を両立させていく。</p> <p>各部門の審議と理事会の決定に基づく、予算策定プロセスを運用している。執行面では、理事会等への予算決算対比報告や電子決裁システムの活用により、計画的な進捗管理と適正な執行体制を構築している。これにより、教育目標の達成を支える健全かつ透明な財務運営を実践している。</p> <p>私立学校法及び寄附行為に基づき、監事は法人の業務並びに財産の状況について監査を行う。併せて、事業報告書（計算書類の経年比較表を含む）、計算書類および監査報告書をホームページに公開している。</p>	<p>令和 8 年度から鍼灸科午後コース（定員 30 名）を新設し、理学療法科・柔道整復科との併修体制を整備する。学内で複数の資格を同時取得できる「W 受講制度」の導入は、本校の教育的特色であり、志願者確保における大きな強みとなっている。</p> <p>令和 7 年度の鍼灸科午後コース新設を機に、中期予算を最新の経営環境に即して更新する。新コース開設に伴う教育投資と、W 受講制度による増収効果を精緻にシミュレーションし、中長期的な財務の健全性と教育の質の向上を両立させる計画を策定している。</p> <p>財務情報公開については、令和 8 年度の学校教育法改正により、大学並みの透明性が求められている。第三者評価や修学支援制度への対応を踏まえ、教育の質と結びついた説明責任を一層強化していく必要がある。</p>

最終更新日付	令和 8 年 2 月 2 日	記載責任者	滝沢 哲也
--------	----------------	-------	-------

## 8-28 財務基盤

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	中長期的な財務基盤安定のため、学生生徒納付金の確保を最重要課題とする。新コース設置等の教育改革で募集力を高め、退学防止策を講じつつ、安定した財務基盤を構築する。	収益基盤の多角化と志願者確保のため、令和8年度より鍼灸科に午後コース(定員30名)を新設する。理学療法科や柔道整復科とのW受講を可能とすることで志願者の増加による納付金収入の安定と、多様な資格取得ニーズへの対応を両立させる。	W受講制度は志願者確保に寄与する一方、学費減免による収益性への影響が懸念される。今後は、単科生との適正な比率を算出し、教育的効果と収益性のバランスを維持しつつ、持続可能な制度運用に向けた検証を行うことが課題である。	過去3年間の計算書類 令和7年度予算 令和7年度事業計画書 収支予算及び向こう二年間の財政計画 学校案内パンフレット 本校ホームページ 令和8年度学生募集要項
8-28-2 学校及び法人運営にかかる主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	決算数値に基づき、財務・経営比率を全国平均と比較・分析する。本法人の財政上の強みと課題を明確化し、経営の透明性を高めるとともに、中長期的な財務の健全性を維持・向上させることを目標とする。	私学事業団等の統計に基づき財務分析を実施した結果、主要指標は全国平均を上回る良好な推移にある。この安定した財務基盤を背景に、新コース設置に伴うICT設備や実習機器等の教育環境整備に対し、計画的な投資を進める。	財務分析結果の学内共有を進め、教職員の当事者意識を喚起することが課題である。経営状況の透明性を高めることで、教育資源の適正配分や経費節減への理解を深め、持続可能な学校運営体制を強化していく。	過去3年間の計算書類 令和7年度度予算 財務比率比較表 5ヵ年連続財務比較表 令和7年度事業計画書 令和8年度学生募集要項

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
全国平均を上回る良好な財務状況を背景に、新コース設置等の教育投資を計画的に進め、募集力強化を図っている。今後は財務分析結果の学内共有を徹底し、教職員の当事者意識を高めることで、財務の健全性維持と教育の質の向上を両立させていく。	令和8年度から鍼灸科午後コース(定員30名)を新設し、理学療法科・柔道整復科との併修体制を整備する。学内で複数資格を同時取得できる「W受講制度」の導入は、本校の教育的特色であり、志願者確保における大きな強みとなっている。

最終更新日付	令和7年12月26日	記載責任者	滝沢 裕子
--------	------------	-------	-------

## 8-29 予算・収支計画

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	教育目標との整合性を図り、単年度および中長期の予算・事業計画を策定する。教育の質の向上を財務面から支えるため、各部門の要望と経営環境を総合的に判断し、計画的な予算執行管理を行うことを基本方針とする。	各部門の要望に基づき運営会議で方針を策定し、評議員会の審議を経て理事会で決定する体制を確立している。合議制による透明性の高いプロセスを通じ、中期計画と連動した計画的な予算編成を実践している。	令和8年度の鍼灸科午後コース新設を見据え、中期予算計画の適正な修正が求められている。新設による増収効果と運営経費を再精査し、最新の経営環境に即した実効性の高い予算計画へと更新することで、安定的かつ計画的な事業運営を推進していく。	令和7年度予算書 収支予算及び向こう二年間の財政計画 理事会議事録 評議員会議事録 令和7年度事業計画書
8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	予算の適正な執行管理により、教育運営と財務の健全性を両立させる。理事会への予算決算対比報告を通じて乖離を早期に是正し、効率的で説明責任の果たせる予算執行を推進する。	理事会等への予算決算対比表の提出により、計画的な進捗管理を徹底している。また、電子決裁システムによる多段階承認フローを構築し、透明性の高い予算管理と事務の効率化を両立させている。	学科別の執行状況を適時可視化し、現場の予算意識を高めることが課題である。システムの活用により予算進捗の把握を容易にし、各学科における計画的な執行と、次年度の精度高い予算策定を推進する。	過去3年間の損益計算書 令和7年度予算書 理事会議事録 評議員会議事録 令和7年度事業計画書

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
各部門の審議と理事会の決定に基づく、予算策定プロセスを運用している。執行面では、理事会等への予算決算対比報告や電子決裁システムの活用により、計画的な進捗管理と適正な執行体制を構築している。これにより、教育目標の達成を支える健全かつ透明な財務運営を実践している。	令和7年度の鍼灸科午後コース新設を機に、中期予算を最新の経営環境に即して更新する。新コース開設に伴う教育投資と、W受講制度による増収効果を精緻にシミュレーションし、中長期的な財務の健全性と教育の質の向上を両立させる計画を策定している。

最終更新日付	令和7年12月26日	記載責任者	滝沢 裕子
--------	------------	-------	-------

## 8-30 監査

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
8-30-1 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか	私立学校法及び寄附行為に基づき、学校業務並びに財産の状況について、経営と教育の質を高める運営をしているかの監査を行う。	理事会及び評議員会に監事2名が出席し、理事および評議員の学校執行および財産の状況を監査している。 監事のうち1名は、毎月行われる教職員会議及び運営会議に出席して、法人運営の状況を直接確認している。	私立学校法の改正に伴い寄附行為の大幅な改定変更を行い、令和7年5月に役員の見直しをはかった。新監事2名により、学校運営への知識を深め、質の高い監査を行えるよう努力している。	理事会議事録 評議員会議事録 監査報告書 教職員会議議事録 運営会議議事録 私立学校法の一部を改正する法律

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
私立学校法及び寄附行為に基づき、監事は法人の業務並びに財産の状況について監査を行う。	監事のうち1名は、毎月行われる教職員会議及び運営会議に出席して、法人運営の状況を直接確認している。

最終更新日付	令和8年1月15日	記載責任者	藤瀬 幸子
--------	-----------	-------	-------

## 8-31 財務情報の公開

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
8-31-1 私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか	私立学校法に基づき、ホームページに財務情報を公開する。	事業報告書(計算書類の経年比較表を含む)、計算書類および監査報告書をホームページに公開している。	財務情報公開は学校教育法改正により大学並みの透明性が求められている。第三者評価や修学支援制度に対応し、教育の質と結びついた説明責任を一層強化していく必要がある。	本校ホームページ 計算書類(資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表、財産目録) 事業報告書 監査報告書 情報公開規程 シラバス 財務比率比較表

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
私立学校法に基づき、事業報告書(計算書類の経年比較表を含む)、計算書類および監査報告書をホームページに公開している。	事業報告書には、計算書類の経年比較表を掲載し、財務状況の変化がわかりやすいように努めている。

最終更新日付	令和8年1月15日	記載責任者	藤瀬 幸子
--------	-----------	-------	-------

## 基準 9 法令等の遵守

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>関係法令および設置基準を遵守し、適正な学校運営を推進している。全教職員を対象とした教職員会議において法令遵守の周知徹底を図るとともに、新人・中途採用者の別を問わず、入職時にはコンプライアンス研修を必須化し、組織全体のモラルの向上に努めている。</p> <p>個人情報 の安全管理に向けた組織体制を整備し、情報アクセス権限を明確に定めている。また、学内ネットワーク（サイボウズ）のクラウド移行に合わせ、最新のセキュリティ対策を導入。情報資産の安全な運用と管理を両立させる体制を構築している。</p> <p>文部科学省のガイドラインに基づき「自己点検・自己評価報告書」を作成・公開している。また、「学校評価委員会」を設置し、客観的な評価結果をホームページで公表している。さらに、その他の情報も広く公開し、教育活動の透明性確保に注力している。</p>	<p>改正私立学校法に基づく寄附行為の変更認可申請を適切に進めている。また、学校教育法の改正に伴う学則の変更に加え、最新の法規制や社会情勢に適応した労働環境を整備するため、就業規則の改定を実施している。</p> <p>本校の教育内容を広く周知するため、ホームページの「情報の公表」ページにて以下の資料を公開し、開かれた学校の実現に努めている。 職業実践専門課程基本情報、学則、シラバス自己点検・自己評価、学校関係者評価、第三者評価の各報告書高等教育の修学支援新制度に係る更新確認申請書 これらの情報を積極的に公開・発信し、SNSによる日々の行事報告を併用することで、各関係者への透明性を高めるとともに、教職員の意識向上を図っている。</p> <p>情報漏洩被害を防止するため、OSの脆弱性改善やウイルス対策ソフトの適切な運用、電子メールの警戒監視を徹底している。また、個人データを含む機器や電子媒体の廃棄に関しては、安全管理措置の内容を委託契約において明確化し、物理・組織の両面から厳格なセキュリティ対策を講じている。</p>

最終更新日付

令和8年2月5日

記載責任者

小磯 嘉貴

## 9-32 関係法令、設置基準等の遵守

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	関係法令及び設置基準を遵守することが重要である。また、コンプライアンスを確立し適切な学校運営を実行する。 今度の学校教育法の改正に対応する。	関係法令や学校設置基準を遵守し、適切な学校運営が行われている。関係法令・諸規則を整備し、教職員会議や学科長及び校務分掌責任者が遵守状況等を把握、管理している。状況については運営会議等で学内に情報共有している。 学校教育法の改正に対応するために、学則の変更をする。	学校教育法が令和8年4月に改正されるので、それに間に合うように、学則の変更を行う。	許可・届出書類 学則 学生要覧 運営会議議事録 教職員会議議事録 入職オリエンテーション資料 FD・SD研修会抄録 寄付行為

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
関係法令及び設置基準を遵守し、適切な運営を実行する。また、教職員に対しては、教職員会議において周知徹底図り指導を行う。学科長及び校務分掌責任者が遵守状況等を把握、管理している。さらに、入職時にはコンプライアンスに関する資料を用いて指導している。	学校教育法の改正に対応するため、学則の変更を行っている。

最終更新日付	令和8年1月15日	記載責任者	大神 啓裕
--------	-----------	-------	-------

## 9-33 個人情報保護

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	<p>個人の権利・利益の保護を図るために個人情報保護に関する法令に基づく内部規程を定め漏えい、滅失及び毀損等の防止と安全管理のために必要かつ適正な措置を講じる。</p> <p>個人情報の取得や利用に当たっては、利用目的を特定しその範囲内で利用する。また、利用目的を通知または公表する。</p>	<p>個人情報保護に関する内部規程に基づき、必要かつ適切に運用している。個人情報の安全管理が図られるよう組織体制を整備し、情報資源へのアクセス権限を明確にしている。また、情報システムのセキュリティ対策を実施している。</p>	<p>個人情報保護に関する内部規程を適切に運用するために、個人情報の取扱いに関する留意事項についての周知を行う。</p> <p>個人の電子媒体の取り扱いについて規約を定める。</p> <p>情報システムのクラウドサービスへの移行に伴い、個人情報の安全な運用管理を実施する。</p>	<p>個人情報保護規程</p> <p>コンピューター使用ルール</p> <p>ウイルス感染等の防止について</p> <p>学校関係者評価における守秘義務に関する規程</p> <p>臨床実習要綱</p>

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>個人情報保護法に基づき、適正かつ的確に運用している。個人情報の安全管理が図られるよう組織体制を整備し、情報を取り扱う権限を明確にしている。</p>	<p>個人データが記録されていた機器や電子媒体等の廃棄は、安全管理のための措置に関する内容を委託契約において明確化する。</p> <p>コンピュータウイルスによる個人情報の漏洩被害を防止する対策として、電子メール等への警戒、OS等の脆弱性の改善、ウイルス対策ソフトの適切な運用等を実施する。</p>

最終更新日付	令和8年1月15日	記載責任者	中西 代志弘
--------	-----------	-------	--------

## 9-34 学校評価

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	学校評価実施規程に沿って自己評価を行い、教職員全員が参加して自己点検を行うことを方針としている。	自己評価を学校運営に活かすため、自己点検・自己評価委員会を設置し、全教職員参加型で自己点検を実施している。	自己点検・自己評価の結果について教職員の周知を高め、各学科や校務分掌の運営に活かしていく。	自己評価報告書 学校関係者評価報告書 学校評価実施規程 学校評価委員会議事録
9-34-2 自己評価結果を公表しているか	関係法令に基づき自己点検結果を公表する。	文部科学省ガイドライン準拠の評価報告書に取りまとめ、本校ホームページに公表している。	関係する外部団体等に対して、ホームページに公開していることを積極的に紹介する必要がある。	本校ホームページ 自己評価報告書 学校関係者評価報告書 高等教育機関の修学支援新制度確認申請書
9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	学校教育法及び専修学校における学校評価ガイドラインに基づき、学校評価委員会を設置し学校評価を実施する。	学校関係者評価実施規程に基づき、学校関係者評価委員会を設置し、学校評価を実施し、評価結果を学校運営に活かしている。	学校関係者評価委員会では教育内容や教育活動、学校運営等について貴重な提言が行われている。その内容について教職員の理解を深める必要がある。	学校評価実施規程 学校評価委員会議事録 学校関係者評価報告書 本校ホームページ
9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか	学校教育法及び専修学校における学校評価ガイドラインに基づき実施した結果を、学校ホームページ等を利用し広く社会に公表していく。	文部科学省ガイドライン準拠の評価報告書に取りまとめ、学校ホームページを利用して公表している。	自己評価結果と同様に、学校関係者評価結果について情報発信していることを、外部関係者に積極的に紹介する必要がある。	学校評価実施規程 学校関係者評価報告書 本校ホームページ

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
文部科学省ガイドライン準拠における評価報告書にまとめ、学校ホームページを利用して公表している。また、学校評価実施規程に基づき、学校評価委員会を設置して学校評価を実施し、評価結果を学校運営に活かしている。	自己点検・自己評価及び学校関係者評価について、内部の教職員への周知を高め、外部に対しても学校ホームページで公開していることを積極的に紹介する必要がある。

最終更新日付	令和8年1月19日	記載責任者	中村 秀樹
--------	-----------	-------	-------

## 9-35 教育情報の公開

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	教育活動の質の向上を目指すとともに情報公開の義務を果たすため、在校生、卒業生、保護者及び学校関係者に対して、積極的に教育情報の提供を行う。	職業実践専門課程基本情報、第三者評価、自己点検・自己評価・学校関係者評価報告書、学則及びシラバス、高等教育修学支援新制度に関わる機関要件の更新確認申請書等を本校ホームページに掲載し、教育情報の公表を行っている。	情報公開するにあたり、情報資産の機密性・完全性の確保を行い、常に正常な運用が必要である。特に個人情報等の厳格な取り扱いが必要である。	学校案内パンフレット 本校ホームページ(職業実践専門課程基本情報様式 4 自己点検・自己評価報告書、) スマートフォン用本校ホームページ

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
職業実践専門課程基本情報、第三者評価、自己点検・自己評価・学校関係者評価報告書、学則及びシラバス、高等教育機関の修学支援新制度に関わる期間要件の更新確認申請書等を本校のホームページに掲載し、本校の教育内容を広く関係者に周知している。教育内容の公開を進めることが、教職員の意識を高めることにつながっている。	個人情報に関わる情報の公開については、本人に利用の用途とその範囲を文書化し伝達する必要がある。

最終更新日付	令和8年1月7日	記載責任者	富永 忠雅
--------	----------	-------	-------

## 基準 10 社会貢献・地域貢献

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>社会貢献・地域貢献に関しては、出前講義を随時受付け、実施した。また、高等学校体育祭の救護活動や各種団体への教室提供ならびに、近隣のスポーツクラブチームへ体育施設の提供を実施した。</p> <p>国際交流について令和7年度は従来のハワイ、台湾、新たに韓国を加えた3か所で実施した。各地の主な研修内容として、ハワイでは大学でのPTの施術やATの活動を学び、台湾では台湾医学大学での解剖研修、韓国では薬草足浴体験・スポーツマッサージ体験等を実施した。</p> <p>ボランティア活動については、毎年継続をしている福岡マラソンの救護活動に加え、体育祭救護や障がい者スポーツなどのスポーツイベントなどに、多くの学生がボランティア活動に参加した。</p> <p>活動依頼があった際には、学内掲示板や情報共有アプリを活用し、広く情報発信を行った。</p> <p>引き続き学生に対してボランティア内容についての説明を実施し、情報発信だけで終わらず、積極的な参加を促すよう取り組む。</p>	<p>本校は医療系専門学校のため、多職種との連携が必要となる。</p> <p>学校生活における人間形成や卒業後の社会活動を鑑みて、より多くのボランティア情報を発信する。</p>

最終更新日付	令和 8 年 2 月 13 日	記載責任者	当真 裕樹
--------	-----------------	-------	-------

## 10-36 社会貢献・地域貢献

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	種々の分野の団体に施設・設備等を提供し、近隣地域をはじめとした社会貢献ならびに地域連携を深めることを目指す。	出前講義を随時受付け、実施した。また、高等学校体育祭の救護活動や各種団体への教室提供ならびに、近隣のスポーツクラブチームへ体育施設の提供を実施した。地域連携の一助となるよう努めている。	歯科衛生科では、歯科ユニットを増設し、学外教育機関の実習を受け入れたが、今後も本校の施設や人材をいかした社会貢献に努める。	学校ホームページ 施設利用願 施設利用規定 出前講義申込書
10-36-2 国際交流に取り組んでいるか	グローバル化に伴い、海外の教育機関で研修を行い、学生が国際的な感覚を身につけられるよう取り組む。	令和7年度の海外研修は従来のハワイ、台湾に加え、韓国の3か国で実施した。 各地の主な研修内容として、ハワイでは大学でのPTの施術やATの活動を学び、台湾では台湾医学大学での解剖研修、韓国では薬草足浴体験・スポーツマッサージ体験等を実施した。	異文化理解、国際交流の機会として、研修内容も毎年調整していく。	令和7年度事業計画

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
出前講義を随時受付け、実施した。また、高等学校体育祭の救護活動や各種団体への教室提供ならびに、近隣のスポーツクラブチームへ体育施設の提供を実施した。国際交流に関して令和7年度は従来のハワイ、台湾に加え、韓国の3か国で実施した。各地の主な研修内容として、ハワイでは大学でのPTの施術やATの活動を学び、台湾では台湾医学大学での解剖研修、韓国では薬草足浴体験・スポーツマッサージ体験等を実施した。	特になし。

最終更新日付	令和8年3月1日	記載責任者	當眞 裕樹
--------	----------	-------	-------

## 10-37 ボランティア活動

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	各種ボランティア活動に学生が取組むことにより、社会性を育み、医療従事者としての自覚を促す。また、社会貢献の重要性を体験させるため、積極的に案内を行う。	今年度もスポーツ系の救護補助を中心に、様々なボランティア活動に参加した。 また、ボランティア依頼があった際には、学内掲示板や情報共有アプリを活用し、情報発信を積極的に行った。	今年度もボランティア参加学生に、偏りがみられた。 学生の社会的活動の機会を広げるためにも、情報発信だけではなく、啓蒙的な案内を実施したい。	各種ボランティア依頼文書

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>今年度も福岡マラソンの救護活動に加え、体育祭救護や障がい者スポーツなどのスポーツイベントなどに、多くの学生がボランティア活動に参加した。</p> <p>依頼があった際には、学内掲示板や情報共有アプリを活用し、広く情報発信を行った。</p> <p>学生に対してボランティア内容についての説明を実施し、情報発信だけで終わらず、積極的な参加を促すよう取り組みたい。</p>	<p>本校は医療系の専門学校のため、学校生活における人間形成や卒業後の社会活動を鑑みて、より多くのボランティア情報を発信する。</p>

最終更新日付	令和8年1月5日	記載責任者	林 賢一
--------	----------	-------	------